

＜ HANDS 設立 10 周年 ＞

おかげさまで設立 10 周年を迎えることができました。この 10 年、私たちの支援が少し役に立った面と、先住民族の置かれている状況がますます悪くなっている面があります。子どもたちの日常生活を通してお伝えしたいと思い、カレンダーを作成しました。ご感想をお待ちしています。



2006 年 10 月 31 日発行

NPO 法人ビラールの医療と自立を支える会

(英文名略称・HANDS)

227-0033 横浜市青葉区鴨志田町 516-11

TEL:045-962-0824 FAX:045-962-1933

E-mail: hands-ty@r07.itscom.net

http://www.jca.apc.org/~hands/

郵便振替口座 00210-5-72693

(加入者名) ビラールの医療と自立を支える会

【2006年夏滞在ノートから】

8月5日 ノビシエイト寮にて奨学生たち(主に大学生)と夕食。食堂は清潔でパンシット(焼きそば)とご飯、パイナップルだけの簡素な食事だったけど味付けが良かった。食後は8月生まれの5名のためのパーティ。YさんとJ君が司会でテキパキと進行する姿に成長を感じた。5名の中には両親がいない子もあり、みんなに感謝の言葉を述べるうちに泣き出してしまふ。私ももらい泣き。

8月10日 バランガイタンビルのパンスーラン村で母と子のための巡回診療と保健ボランティアさんへの調理指導。体重計に乗るのが怖くて泣き叫ぶ子あり、虫下しの薬を吐き出す子あり。保健ボランティアさんも野菜を炒め過ぎたり、でもおやつに作ってくれた甘いお粥がおいしかったり、と楽しい一日。

8月15日 PFP 事務所でブラクール小学校・高校の近況を伺う。今年のクリスマスプレゼントのテレビ授業(通信 45 号参照)は続けているのか尋ねると、「雨期で道が悪く、先生方が発電機用のガソリンを買いに出かけられない」とのこと。今年のプレゼントは本にしたらどうか、とアドバイス。

政府の方針で鉱山開発が活発になっており、山奥の村でも鉱山会社が説明会を開催している。そのようなときは村の長老たちから奨学生に、村に戻って一緒に説明会に参加するよ

うに要請がくるそう。村には高卒以上の学歴がある人はおらず書類を読むことができないから。そんな子どもたちの支援をしていることに誇りを感じると同時に、環境破壊が心配になる。

8月18日 シラブ村で持続可能な農業のセミナーに同席。村のリーダーのJ氏に「働き者ですね」と言ったら、「働かないと生きていけないから」と返された。一本取られた…

8月23日 レイクセブ町ベトウオル村でティナラクを織るところをみせていただく。お母さんの手仕事をじっと見つめる少年の瞳が印象的だった。私も母がミシンを使うところとか良く見ていたなあ。

9月2日 1年前に訪れたジェネラルサントス市はずれのティナガカン村を再訪。ココナツの葉で作る屋根材の注文が増え、村はにぎわっていた。とはいっても小さな家の屋根なら 500 個必要な屋根材の単価は 1 ペソ(約 2 円)。Rさんは1日で50個作るそう。Rさんの5才の息子が、



忙しい家族のために夕食のお米をといで炊いていた姿が忘れられない。

※ ※ ※ ※

行く先々で出会ったさまざまな困難な状況にある子どもたち。その表情をカレンダーにしました。イラストは会員の石井尚子さん。むじゃきな笑顔を守る活動を続けていきたいと思います。(九島)